

## 平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

### 1. 学校概要

学校名 渋谷教育学園渋谷中学高等学校

種 別  保育園・幼稚園       小学校       小中一貫教育  
 中学校       中高一貫教育       高等学校  
 教員養成       技術/職業教育  
 特別支援学校       その他 (                      )

所在地 〒150-0002  
東京都渋谷区渋谷1-21-18

E-mail : [webmaster@shibuya-shibuya-jh.ed.jp](mailto:webmaster@shibuya-shibuya-jh.ed.jp)

Website : <http://www.shibuya-shibuya-jh.ed.jp/>

児童生徒数 男子 558名(中 287名、高 271名) 女子 710名(中 361名、高 349名)      合計 1268名(中 648名、高 620名)  
児童・生徒の年齢 12歳～18歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（ 次世代グローバルリーダー養成 ）

### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

まず、ESDに不可欠な地球規模の視野については、豪州、米国、シンガポール、ベトナム研修でのホームステイや学校訪問など、様々な国の人々との直接的な交流を通して育てています。シンガポールやベトナムの研修は参加人数が限られているので、参加した生徒はプレゼンテーションを行ない他の生徒たちと経験を共有していました。また、放課後第二外国語(中国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語)講座の開設、中国の学生たちとの文通、ジャーマンスクールとの相互交流など研修以外の交流もいろいろ行ないました。その他、フランス、オーストリア、オーストラリアから留日生を受け入れ、自国の文化の紹介や日本との違いを発表してもらう機会を作りました。また、シンガポールのトップ校であるRaffles Institutionの生徒達を受け入れ、授業で地球社会が抱える様々な問題について意見交換しました。さらには、模擬国連活動にも積極的に関わり、昨年度も全日本大会で優秀校に選ばれ、ニューヨークでの国際大会にも出場しました。

次に、地球社会が抱える問題を知り、その解決策を考えていく姿勢については、人権、環境、エネルギー、貧困、戦争や紛争など共通のテーマを様々な角度から学び考える教科横断型授業を通して育てています。その際、自調自考→行動→発表という過程を基本としたアクティブ・ラーニング型授業を積極的に行なっています。生徒達の視野を広げるために、諸外国の方々を東京外国語大学大学院から招き、メンターとして参加してもらっています。授業で学んだことをさらに深めるために校外研修も実施し、各自の研究をまとめてプレゼンテーションを行いました。高1の英語の授業では広島研修の研究成果をインターネットで米国の姉妹校に紹介し、世界史の授業で教材として使用してもらいました。さらに、優秀な作品を作ったチームは現地に赴き特別講師として授業を行ないました。高2はこれまで授業で学んだ地球社会が抱える問題の解決に向けて各人が社会貢献活動を行ない、その経験を通して学んだことを発信する「Social Justice プロジェクト」を実施しました。

次に、次世代リーダー育成についてですが、特に、体系的な思考力、問題発見解決能力、クリティカルシンキング、データや情報の分析力を向上させる機会として「自調自考論文(大学の卒業論文のイメージ)」を製作させています。実践的なリーダーシップ力を伸ばす機会としては、米国ハーバード大学の学生寮に宿泊しながら同校の学生とディスカッションをしたり、マサチューセッツ工科大学や企業人と話をしたりする「次世代リーダー養成プログラム」を行なっています。

最後に、生徒たちのモチベーションを高める機会ですが、卒業生ネットワークを作って大学や社会での活躍を把握し、ニュースレターでの紹介、卒業生による講演や相談会、シンポジウムを定期的に行なっています。生徒たちが実際に持続可能な社会構築に携わるのは卒業後です。本校のESDを通して身に付けた力が社会でどのくらい有用であるかを伝えてもらうことは在校生のやる気を促すだけでなく、教員の自信にもなっています。

上記のような教育活動の結果、自主性と国際性、発信力に富む生徒が多く育ち、ESD関連の活動が積極的に行なわれています。「Actions, Not Words」を合言葉に生徒会が中心となって「女性の人権」や「児童労働」について問題提起をする活動がその一例です。また、ボランティア部では、四年間に亘り、夏合宿で過疎

地域の一つである長野県栄村を訪れ、農作業を手伝っていることに加え、ペットボトルのキャップを回収、ユニクロが展開する「服のチカラプロジェクト」という古着回収プロジェクト、文具をネパールの子供たちに送る活動をしています。生徒の発案によって始め、呼びかけ、実施、継続まで全て生徒の手で行われていることが本校の誇れる点であると思っています。

以上の取り組みの中で特に教科横断型授業開発については、昨年12月5日(土)に開催された第7回ユネスコスクール全国大会の分科会において「2050年の世界を救うための授業」というタイトルで事例発表させていただきました。

(2) 活動時間について(下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他(夏休み、学園祭など)